

環境通信

ENVIRONMENT

問い合わせ先 環境衛生課(合志庁舎) ☎248-1202

燃やすごみの量を減らしましょう

家庭から出る燃やすごみの量
(一人1日当たり)



(1gは、1円玉 1枚分です)

※ごみ排出量については、東部清掃工場に収集車で搬入されるごみと直接搬入されるごみの量です。可燃性粗大ごみは含んでいません。

河川等の環境測定結果の公表

市では、公害発生の未然防止と生活環境の保全監視を目的に、毎年各種の環境測定検査を行なっています。平成25年度は次の3種類について行ない、いずれも異常はありませんでした。

①工場関係

- ・検査項目
六価クロム
- ・検査箇所
合志技研工業(株)メッキ工場
周辺の土壌・大気・牛乳・
主要河川水、市営水道水源

②川関係

- ・検査項目
PH、BOD、ふっ素、窒素、リン、溶存酸素量など
- ・検査箇所
塩浸川、上庄川、堀川、上生川

③地下水関係

- ・検査項目
カドミウム、シアン、ひ素、水銀、鉛、硝酸態窒素、各種農薬など
- ・検査箇所
元気の森公園、蛇ノ尾公園

雨水タンク設置費補助金

市では雨水の有効利用による地下水の保全のため、雨水タンクを設置する人に補助金を交付しています。この機会に是非ご検討ください。

雨水タンクとは雨水をためておき、庭木の水やりや洗車などに利用するものです。本市の水道水は100%地下水でまかなわれているため、地下水保全になると共に、家庭では節約になります。

●助成内容

- ・容積200ℓ以上の場合
工事費を含む本体価格の2分の1まで(上限35,000円)
- ・容積200ℓ未満の場合
工事費を含む本体価格の2分の1まで(上限24,000円)

※補助金額の1,000円未満は切り捨てます。

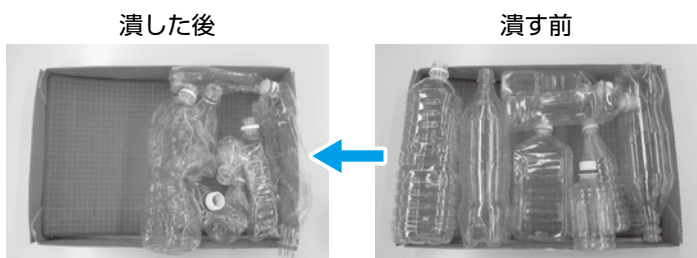
●助成の対象

- ・雨水タンク(雨水貯留槽)などの名称で一般に販売されている専用製品
- ・有効貯水量が50ℓ以上
- ・1世帯、1事業所につき1基まで

ペットボトルのごみ出し方法が変わりました

これまで、ペットボトル(資源物H)をごみとして出す場合は、指定袋に入れて、潰さずに出すようお願いしていました。但し、処分場での処理方法の変更により、潰して出すことも可能になりました。

なお、空き缶(資源物A)は、処分場での圧縮作業の都合により、今までどおり潰さずに出すようご協力をお願いします。



ペットボトルを潰して出すことで、体積を約半分にすることができます。

人権教育シリーズ②1

市では人権教育の推進のため、さまざまな活動や啓発に取り組んでいます。ここでは、取り組みの内容や情報を定期的にお知らせしていきます。

合志小学校の取り組み

～人権教育のすばらしさを伝えるために～

今回は合志小学校の昨年度1年間を振り返った取り組みを紹介します。

親と子のハンセン病問題講演会

昨年6月に、合志小学校体育館でPTA主催の「親と子のハンセン病問題講演会」を開催しました。蒸し暑い日でしたが、たくさんさんの保護者と4年生から6年生までの子どもたちが熱心に講演を聞ききました。

講師の金正美(キム・チョンミ)さんは、ハンセン病回復者の詩人・桜井哲夫さんとの交流を通して感じたことや学んだことを伝えました。講演を聞いた子どもたちは金さ



講師の金正美さん

んに「ハンセン病のことを知らない人に正しく伝えていこう」と思いました。感想や決意を発表しました。また、学習発表会では、金さんの話を菊池恵楓園や水保で学習したことと重ね、「本当のことを知らない」と、聞

違った見方や差別が起こる。それは、人の心を断ち切り、人間らしく生きる権利を奪ってしまふ。まずは、正しく知ることが大切だ」と伝えました。

合志中ブロック6年生合同人権学習会

2月28日、合志南小学校で、合志中学校に進学する合志小・合志南小・南ヶ丘小の6年生が集まって合同人権学習会を開催しました。

この会は同じ中学校に進む子どもたちがお互いを知り合い、共に差別をなくしていくなかとつながることを目的としており、今年で14年目を迎えます。

最初は表情が硬かった子どもたちも、ゲームを通して打

ち解けあい、自己紹介や名刺交換をしました。その後、人権学習で学んだことを、学校ごとに作文や構成詩、劇と様々なスタイルで発表し合いました。

この発表を受けて、自分のことと重ねたという感想や意見がたくさん出され、参加した子どもたちみんなが人権について真剣に考えていると実感されました。また、終了後の感想には、「発表するとき、とっても緊張しましたが、いつもの3倍ぐらいの人がいたから、発表するときは体がふるえました。差別された経験を話すことや友だち関係のことを話すのは不安だったけど、意見交流のとき、たくさん手をあげてもらえたから、とてもほっとした気持ちになつてうれしかった」とつぶやかれていました。

「ぼくたちは、人権学習の中で『差別をなくす』ってどうすればいいのだろうと学んであつてきました。差別をなくすことは毎日の暮らしの中にあることです。いやなことを言われたり、されたりしたとき、今は『やめて』と言えるようになりまし。『差別をする』という間違った考えは、人権学習で学んだことで、人権学習で学ばうことで、変われたような気がしています。

中学生になろうとしている今、勉強のこともあるけれど、友だちのことが気になっています」

発表した子どもたちも満足感を得たようで、参加した子どもたちにとって有意義な時間となりました。

最後は、あらゆる差別をなくすために活動している来賓の大山さんと合志中の喜納先生から、子どもたちに激励の言葉をいただきました。

